

全国保健師長会 栃木県支部だより

発行
全国保健師長会
栃木県支部
平成29年10月1日
第33号



支部長あいさつ

支部長 大賀 昌子 (とちぎリハビリテーション)

深秋の候、会員並びに関係各位におかれましては、日頃から当支部活動につきまして格別のご理解とご協力をいただき深く感謝申し上げます。

最近の自然災害（集中豪雨による浸水や土砂災害等）については、いつ・どこで発生してもおかしくない状況であり、改めて災害対策について、各所属で指揮命令や災害活動マニュアル再確認等について組織で真剣に話し合い対応できるようにしておかなければなりません。危機管理体制や災害マニュアルの見直しについては、公衆衛生活動の最先端の情報を日頃からアンテナを高くして活動をしていきましょう。

さて、全国保健師長会の平成29年度活動テーマは『社会の課題に向き合う公衆衛生看護活動の展開～保健・医療・福祉をつなぎ安心して健やかに暮らせるまちづくりの実現～』となっています。私たち保健師活動も、新たな社会の課題に対応できるよう、地域特性を把握しつつ専門性の高い活動の展開を求められています。当支部活動も有意義な研修の開催や情報発信をしていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。

今年度の5月20日（土）の研修会も参加者54名（非会員1名）により、『統括的な役割を担う保健師の現状と人材育成について語ろう！』というテーマで開催しました。統括保健師の配置されている市町の状況について、栃木市・宇都宮市・大田原市の統括保健師に話題提供をして頂き、グループワークで意見交換を行いました。統括保健師の配置の必要性を再認識し、今後も各職場で要望を出して組織全体で連携した保健師活動、また、人材育成を実施することが大切であるなど活発な意見が出されました。ご発表頂いた統括保健師の皆様には、お忙しい業務の中、各市町の状況をまとめていただき有難うございました。

これからの少子高齢・人口減少の時代を他職種・他部署との連携で、あらゆる世代や健康レベルの人々が、安心して健やかに暮らせるまちづくりをするために、我々も各職場で保健師のリーダーとして若い保健師に背中を見せられるよう頑張っていきたいものです。今後とも実りある研修会等を開催していきたいと検討しておりますので、是非ご参加いただき日々の想いを、市町・県という組織の壁を無くし、リーダー保健師として本音で語り合える全国保健師長会栃木県支部にしていきたいと思っております。

先日、長野県で行われました北関東甲信越ブロックの研修会で、青柳会長より『全国保健師長会が平成30年度には発足40周年を迎えるため、40周年記念事業特別委員会を設置し、今後の記念事業等を開催していくため、会員の皆様にはご理解とご協力をお願いしたい。』との報告と協力依頼がありました。全国の保健師活動の最新情報についてはぜひ全国保健師長会のホームページをご覧ください。

〈全国保健師長会加入状況〉

〈平成29年度役員紹介〉

	県(人)	市町(人)	計(人)
平成25年度	47	75	122
平成26年度	51	91	142
平成27年度	51	94	145
平成28年度	51	102	153
平成29年度	49	112	161

職名	氏名(所属)
支部長	新 大賀昌子 (とちぎリハビリテーション)
副支部長	継 金澤優子 (衛生福祉大学校)
副支部長	継 平石紀子 (宇都宮市役所)
書記	新 長野泰恵 (安足健康福祉センター)
会計	新 高橋信子 (真岡市役所)
監事	継 矢野弥生 (大田原市役所)
都道府県部会	新 家入香代 (栃木県こども政策課)
本部広報委員	継 大野みゆき (安足健康福祉センター)
健やか親子特別委員会	継 川村和枝 (栃木県保健福祉課)

※ 皆様のご入会をお待ちしております。

平成 29 年度 第 1 回 全国保健師長会栃木県支部研修会報告

- *日 時： 平成29年5月20日(土)
13時50分～16時30分
- *会 場： パルティー男女共同参画センター
- *テーマ： 「統括的な役割を担う保健師の現状と
人材育成について語ろう！」
- *参加者： 54名（会員53名、非会員1名）



松長さん



難波さん



矢野さん

「地域における保健師の保健活動について（平成25年4月19日付け通知）」において、統括的な役割を担う保健師等の配置や現任教育体系の構築による研修等実施について明示され、県内各市町において進められています。今回は、栃木市、宇都宮市、大田原市から現状報告をいただき、県、市町保健師と一緒に日頃の思いを語り合う貴重な研修となりました。

栃木市 健康増進課 主幹 松長幸子さん

- ・平成26年度の組織機構に関するアンケートで統括保健師の配置を要望し、平成28年度、事務分掌に「組織横断的な保健師の統括に関すること」を明記し、統括保健師が配置された。
- ・統括保健師として、保健師活動全体を把握し、人材育成研修・情報交換会の定期開催、関係各課への意見具申、災害時等の保健師配置調整・指揮系統の集約等の役割を担っている。
（保健師47名 3部5課7係に配置）

宇都宮市 保健福祉総務課 主幹 難波敏子さん

- ・平成28年度、業務本課ではなく、地域（拠点）を管轄する「保健福祉総務課」に統括保健師と同様の役割を担う者として管理職である「主幹」を配置した。
- ・部署を超えた保健師業務の相談窓口の一元化により、効果的な保健活動・人材育成につながった。また、災害時派遣要請等に速やかに対応できるようになった。
- ・統括保健師が期待される役割を十分果たすため、保健師一人ひとりがその役割や配置の目的を理解し、寄り添う体制づくり、関係各課に組織としての統括保健師の位置づけや業務内容を理解してもらうことが必要である。（保健師84名、3部9課に配置）

大田原市 健康政策課 統括主幹 矢野弥生さん

- ・平成29年度は健康政策課内2係のリーダー保健師の事務分担に「保健師の業務連携及び調整に関すること」と明記し、調整、研修受講管理をしている。栃木県保健師現任教育指針の活用とともに、随時階層別の部署内研修の実施、県内研修の随時参加、予算確保による県外研修に参加している。（保健師19名、1部3課5係に配置）

<研修会のアンケートから皆様のご意見の一部を紹介します>

- ・研修全体の企画：とても良かった42.5%、概ね良かった52.5%
- ・分散配置の現状で統括保健師の役割は大きく、いかに実績を見せていくかが大切と思った。
- ・組織機構の見直し、統括保健師の必要性の要望の仕方が参考になった。
- ・組織内にいる保健師がいかに有効に活用していけるか、連携の方法等、組織横断的に考えることができるのが統括保健師で、統括がいなくてもその視点を持って他課と連携していくことが必要と思った。
- ・課長クラスの保健師と話す機会がないので、悩みも聞けて参考になった。



『保健師職能をめぐる看護協会の動きについて』

栃木県看護協会保健師職能委員長 五月女祐子
(栃木県県南高等看護専門学院 所属)



栃木県看護協会保健師職能委員会の活動につきましては、日頃からご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

また、この度は全国保健師長会栃木県支部の役員の方々のご厚意により、支部だよりに看護協会における保健師職能をめぐる動きについてご報告させていただく機会を頂戴し、大変感謝しています。

さて、まずは日本看護協会の動きですが、看護協会といえば「絶対的多数の会員を要する看護師さんの職能団体」というイメージが強いと思います。しかし、このところ保健師関連の事業が精力的に展開されるようになっていきます。平成 28 年度は国の政策と連動して「保健師のキャリアラダー」に関する看護協会版のラダー到達度チェックリストを作成しました。このチェックリストは何ができれば「一人前の保健師」なのかをより具体的にしたもので、日本看護協会のホームページからダウンロードできますので、ぜひご覧いただき、ご活用ください。また平成 29 年 6 月 8 日には千葉市で「平成 29 年度全国保健師交流集会」が開催されました。今年は「もう一度地区活動～PDCAサイクルにもとづいた戦略的展開～」というテーマでシンポジウムが行われました。全国から4つの事例報告がありましたが、保健師活動指針にも示されている地区担当制による地区活動は、今、国が推進している「地域包括ケアシステム」そして、新たに打ち出された「地域共生社会」につながっていくものと実感しました。

次に本県の保健師職能委員会の活動についてご紹介します。現在市町及び県の保健師 9 名の委員で活動しています。平成 29 年度は「個別性に着眼した人材育成」をメインテーマとして、前歴や採用後の勤務状況、また個性も様々な保健師一人一人が主体的に自分育てをするにはどうしていけばいいかを考えていきたいと思っています。6 月 17 日に実施した保健師職能集会では「なぜ、今、キャリアラダーなのか」を参加者間で共有し、自分育てを行う上での現状と課題について年代別のグループ討議を実施しました。どのグループも活発な意見交換がなされていました。

なお、この研修会結果を踏まえて、10 月 14 日(土)に第 2 弾の研修会として、「先進事例から学ぶ自分育て」(仮)として、すでにキャリアラダーを実用化して個々の保健師の人材育成に取り組んでいる横浜市の保健師さんから実践報告をしていただく研修会を予定しています。

「人材育成」というと、組織内の画一的な人材育成計画のもと、「育ててもらうもの」というイメージが強いのですが、これからの人材育成は、より能動的な「自分育て」という発想が重要です。そのためには各組織がキャリアラダーを有効に活用し、一人一人の保健師の個性を認め合い、「みんな違って、みんないい」人材育成を実現できるよう一緒に考えていきませんか？

～ インフォメーション ① ～

第2回研修会について 平成30年3月3日(土) 午後1時～4時

テーマ「統括保健師(リーダー保健師)はいち早く情勢を正しくキャッチしよう！」仮称

講師：矢島鉄也氏 元厚生労働省健康局長(現千葉県病院局)

生活習慣病対策室長在任中にメタボ健診・保健指導の制度設計に携わる

平成25年4月「地域における保健師の保健活動指針」局長通知

誰よりも行政保健師、管理栄養士の予防活動の在り方を熟知した行政マン

全国保健師長会 北関東・甲信越ブロック研修に参加して



会長 大賀 昌子（とちぎりハビリテーションセンター）

書記 長野 泰恵（安足健康福祉センター）

平成 29 年 9 月 23 日、長野市保健所において 76 名（栃木県 3 名参加）の保健師が参加し開催されました。

まず初めに、全国保健師長会の青柳会長から「平成 29 年度全国保健師長会活動報告」として、活動方針、最重点活動目標に基づいた各部会・委員会等の活動について報告があり、全国保健師長会の様々な取り組みを再確認しました。今年度は、道府県部会では県型保健所における新任保健師の現任教育について、現任教育担当責任者向けのアンケート調査、市町村部会では全国の会員拡大に向けた取り組み資料の作成が行われます。また、最重点活動目標のひとつである「災害保健活動の推進」の取り組みとして、平成 25 年に作成された「大規模災害における保健師の活動マニュアル」の見直しに向けた調査研究が行われます。その他、平成 30 年度開催の 40 周年記念事業に向けて準備が進められています。

次に、東京都東大和市の志村氏より「地域包括ケアシステム構築の推進にかかる保健師の役割に関する研究」として、保健師が認識している地域包括ケアシステム構築の全国的な進捗状況と推進のための保健師活動や果たすべき役割を明確にすることを目的に、全国の保健所・市町村・直営型地域包括支援センターの保健師に対する調査結果について報告がありました。地域包括ケアシステムの進捗状況は 2～3 割程度が不十分であると認識しており、保健師の果たすべき役割として、保健所では体制構築や在宅医療の仕組みづくり、市町村保健部門では組織横断的な意見交換の場や地域課題の量的明確化、市町村高齢介護部門では計画策定や地域包括支援センターとの連携等があることが明らかになり、それぞれの役割を認識し推進していくためのチェックリストが提示されました。

その後、各支部から報告された「保健師活動実践報告」11 事例から 5 事例の報告があり、グループワークでの活発な意見交換が行われました。

【報告 1】保健師業務研究会をとおして取り組んだ地区診断：茨城県行方市

【報告 2】多量飲酒者への訪問をとおして自殺予防とアルコール対策を考える：新潟県小千谷市

【報告 3】佐久市在宅医療・介護の連携体制推進事業の実施による成果：長野県佐久市

【報告 4】小規模自治体の育成トレーナーによる新任保健師育成の取り組み：長野県飯島町

【報告 5】母子保健活動における保健師の役割を考える：長野県安曇野市

いずれの報告も、日頃の地区活動通じ地域の実態を把握し、個別事例の健康問題の共通点や地域特性等から地域全体の健康課題を捉え、これらの健康課題を関係機関等が共通理解し具体的な事業展開を検討、実践していくという一連のつないでいぬいな保健師活動が伝わってくるものでした。改めて、日頃の活動の「見える化」をしていくことの重要性を実感した研修でした。

〈来年の北関東・甲信越ブロック別研修会の開催予定〉 平成 30 年 9 月 新潟県（新潟市支部）

～ インフォメーション ② ～

第 39 回全国保健師長会代議員総会

日 時：平成 29 年 11 月 18 日（土） 9:30～16:00

会 場：新潟グランドホテル（新潟市）

内 容：テーマ「見る・つなぐ・動かす」公衆衛生看護活動を目指して

～今の時代に求められる保健師活動の可視化とは～